

令和2年度地域課題解決研修「宗谷管内における仔牛の寒冷対策について」

宗谷農業改良普及センター

厳寒期があり雪が多い宗谷管内では、どの牧場でも何らかの寒冷対策を実施して仔牛を飼養しています。

- (1) 積雪量が多く、冬期に外で仔牛を飼養することが困難なため、牛舎内にカーフハッチを設置して、通年舎飼いをしている牧場が多い。
- (2) 仔牛を外気にさらしたくない、雪の上を歩かせて移動させたくない等の理由から、仔牛の移動を最小限にした施設環境にしている牧場が多い。

宗谷管内における特徴的な仔牛の寒冷対策事例をご紹介します。

* 寒冷対策のために取り組まれている事

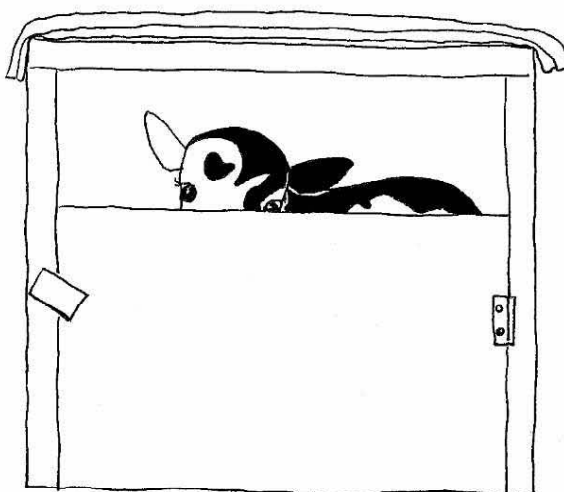
【ヌレ仔(出生直後から)の寒冷対策】施設・環境編

- ・親にしっかりとめさせる(リッキング)、タオルや寝わらで拭いてやるなどの被毛を乾かす処置をしてから、ヌレ仔ハッチ(独房)へ移動。
- ・ヌレ仔ハッチではヒーターや湯たんぽを入れて、仔牛の体温を下げない。
- ・仔牛が初乳が飲める状況になり、飲乳欲求が出てから初乳を十分に給与。

【ヌレ仔ハッチ例】

毛布やシートをかけ
て完全に囲える仕様

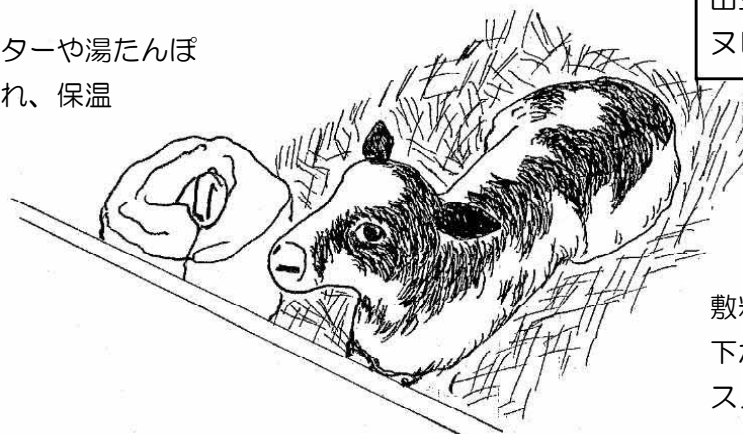
コンパネなどで上部、
横(左右、前後)を囲う。
狭く囲うことで
仔牛自身の体温を逃がさない。



【ヌレ仔ハッチ内部】

ヒーターや湯たんぽ
を入れ、保温

被毛がしっかり乾くまで、
出生後～2日程度
ヌレ仔ハッチで飼養



敷料たっぷり
下からの冷気を遮断
スノコの活用も有効

【ほ乳牛の寒冷対策】施設・環境編

・牛舎内のあたたかい場所にハッチやペンを設置。牛舎全体の換気を良好に保つ。

〔ほ育牛飼養例〕

夜間など寒冷が厳しい場合は、
毛布や寒冷紗をかけさらに防寒。

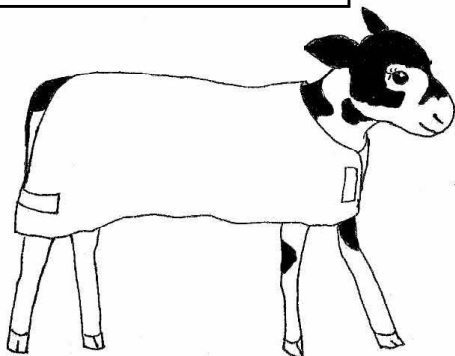


囲うことで
仔牛の体温が逃げない
かつ
冷気にさらされない

冷気があたる場所
(柵の部分など)は
コンパネやシートをたて
風よけの対策をする

敷料たっぷり
マットなどを敷いて牛床を高く設置
下からの冷気を遮断

ジャケットの着用も有効



仔牛をぬらすのは厳禁！
濡れた体にすきま風があたると寒い！
環境はクリーン＆ドライに。
仔牛が濡れるような牛床・敷料はNG

仔牛のボディチェック
汗や糞尿で体をぬらさないように管理
濡れたときは、しっかりタオルで拭く

Point

通年舎飼いでは育・育成牛を飼う場合は、
牛舎内全体の換気を良好に保つことが重要です。

換気は良く

かつ

仔牛の体に直接冷気があたらない（すきま風にさらされない）
環境になるように対策されています。

【寒冷期の栄養増給】

仔牛は 15℃以下での環境では、体重維持に必要な栄養要求量が多くなります。

表 体重維持に必要な代用乳の量

〔出生から 3 週齢までの場合/生時体重 45kg の場合〕

	環 境 温 度					
	20℃	15℃	10℃	5℃	0℃	-5℃
常時必要	359 g	359 g	359 g	359 g	359 g	359 g
増加分	0 g	48 g	96 g	145 g	193 g	241 g
合計	359 g	407 g	455 g	504 g	552 g	600 g

代用乳成分：タンパク質 24 %、脂肪 20 %、TDN107 %で試算

〔寒冷期のミルクの増給方法〕

- ・ミルクの給与量を増やす
- ・寒冷期は高エネルギーのミルクに変更

注意

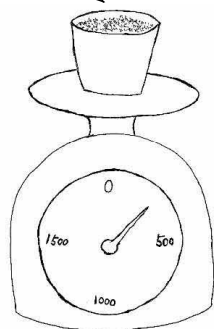
ミルクの給与は、定時・定温・定濃度が基本
基本は代用乳の用法・用量を守って給与

チェックポイント

仔牛がしっかり成育しているか。
給与している栄養が充足しているか。

→ ミルクを何リットル給与しているかではなく、代用乳(粉)が何 g あたっているか

給与している代用乳(粉)が
何グラムか
はかってみよう。



代用乳の用量に見合うだけ
の代用乳(粉) g を給与してい
ましたか

代用乳（給与量例）

週齢	給与量	
	1 日	1 回
1	600g	300g
2	800g	400g
3～5	1,200g	600g
6	800g	400g
7	600g	300g

お湯 1.0 ℓに対し 160g を
溶かす

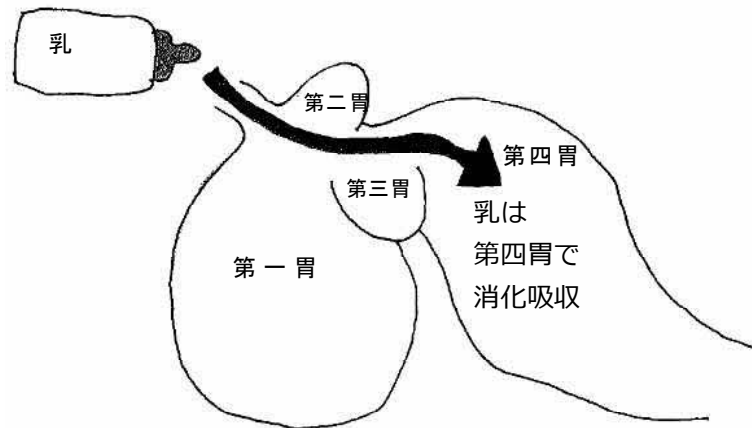
Point

※代用乳の銘柄毎に
用量・用法があります。
規定量のミルクが給与されていますか？

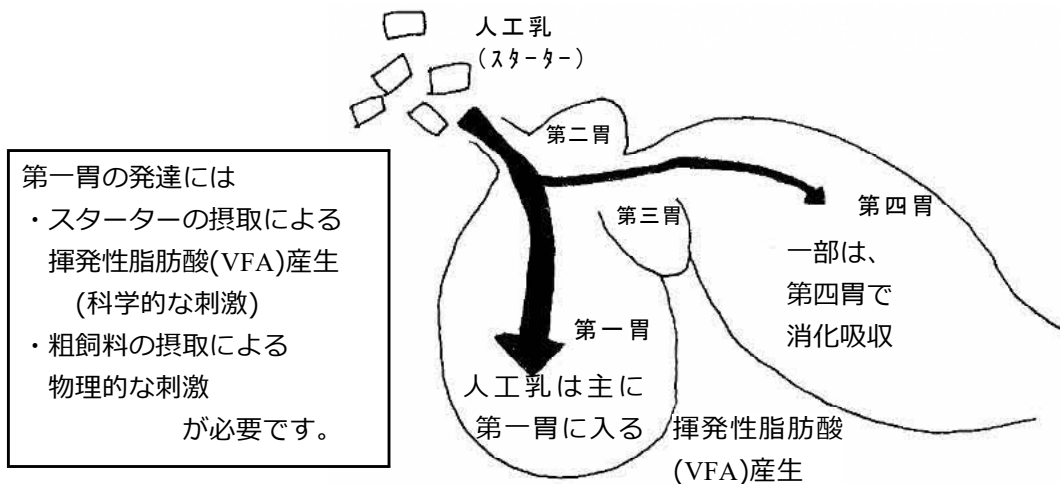
〔豆知識〕 誤嚥させない哺乳をするには

下図は仔牛の胃袋です。

○ ミルク(生乳・代用乳)は第四胃に入ります



○ 人工乳(スターター)は主に第一胃に入ります



※ミルク、水、スターターの区別が仔牛にわかるように給与することが、誤嚥予防になります

